しめっち通信 vol.5

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク ニュースレター

The Shimecchi Report

February 2021

しめっちグッズ「編んだもんだら」も販売！

湿地にまつわるポスター展示

シッチスイッチ

今日ドキッ！
トークライブ
「こちらHBC報道部」
シッチを知った私たちにできること

北海道湿地フォーラム2020 開催報告

北海道における湿地の存続が危ぶまれています。生活に欠かせない湿地を守り育み、その恵みを未来世代も享受できるように SWITCH（転換）する、そんな「北海道における湿地の主流化」をテーマに『北海道湿地フォーラム2020 ～シッチスイッチ～』を、10月末の2日間開催しました。しめっちネットも実行委員会に加わり、１年余りの準備期間を経て、コロナ対応を徹底して当日を迎えました。

１日目、２つの湿地を巡るエクスカーションから始まり、湿地に関わるスペシャリスト9名による講演会"サイエンスセッションA/B"そして2日目の"総合サイエンスセッション"を通じて湿地の現状とその危機について深く学びました。また『シッチスイッチ宣言～ぼくらは湿地でできている～』を宣言しました。（セッションの様子はライブ配信し、"YouTubeしめっちチャンネル"で見られます）

2日目午後は『エンタメセッション』を開催。小橋亜樹さん、アップダウン、HBC掘啓知アナウンサーなど豪華出演陣による『学べる湿地寸劇』をお楽しみいただきました。本公演を形に残すために資金を集める企画が進行中です。

その他のお知らせ・ご報告

YouTubeで動画配信中 しめっちチャンネル

YouTubeで動画チェック！

しめっちネットでは、「しめっちチャンネル」にて今までのイベントの様子や湿地を楽しく知るしめっちムービーなど、動画を配信しています！ 10月に開催したシッチスイッチの一部も、こちらでご覧いただけます！

皆さんのチャンネル登録、お待ちしてます♪

第５回 しめっちフォーラム 今も昔もシッチと生きる

皆さんに湿地の価値・魅力を伝えるために毎年開催している「しめっちフォーラム」、今年は「今も昔もシッチと生きる　Life is Beautiful!」と題して、2021年2月6日（土）、行いました。まず基調講演は、札幌大学の瀬川拓郎教授から「水と地のあわいに生きる―エコトーンの視点からみたアイヌの歴史」、そして恒例のこみにゅ亭楽時男さんによるしめっち落語の新作（なんと第５弾！）、しめっちトークショーでさまざまな活動や想いを聴き、最後はお馴染み"The Horse Bone Brothers"による「しめっちソングライブ♪」で盛り上がりました。学びあり、笑いあり、音楽あり、シッチを改めて感じ考える1日となりました。当日の映像は、**YouTubeしめっちチャンネル**でご覧いただけますので、参加できなかった方は、是非こちらでお楽しみ下さい。

※「しめっち通信 vol.5」は、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて制作されました。

しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めていますが、常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていこうと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

仲間募集！

一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか？

● 正会員

対象　当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思があり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。

年会費　5,000 円

● 賛助会員

対象　当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メーリングリストでネットワークの情報が提供されます。

年会費　5,000 円 (団体）　1,000 円（個人）

● サポーター

当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方にご登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。

お問合わせ・お申込み
石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク（しめっちネット）
札幌市中央区南８条西２丁目 5-74　市民活動プラザ星園 201 号（北海道 NPO サポートセンター内）
011-200-0973　info@ishikarigawa-net.com
http://ishikarigawa-net.com/

しめっちネットのHPで最新情報も見てね！

しめっちマスコット トーノくん

湿地を巡る！

しめっちネット湿地視察研修

道内の湿地保全の利活用やその活動について学ぶため、９月６日から９日の間、道東地域の湿地や施設を巡る視察研修を行いました。この研修はしめっちネットの若手人材育成研修も兼ねており、若手を含めた６名が参加しました。

道東入り１日目は、厚岸町の「カキキンオイスターバー」へ。牡蠣料理を美味しくいただきながら、オーナーの中嶋均さんより厚岸の牡蠣養殖の歴史についてお話を聞きました。

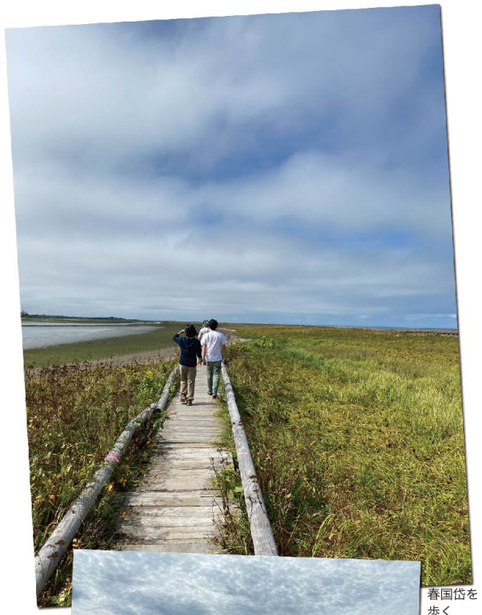
２日目は、根室市の春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターを訪問。根室市歴史と自然の資料館 学芸員の外山雅大さんより、根室の自然環境（根室は湿地の楽園！）や、エゾシカによる食害問題、ソーラーパネル問題等について教えていただきました。その後、市内に残っている湿地や落石岬、ソーラーパネル建設予定地を見学しました。

３日目は、別海町の野付半島ネイチャーセンターを訪問。センターの石下亜衣紗さんより、野付半島の自然やセンターでの活動について教えていただきました。野付半島は日本最大の砂嘴であり、2005年にラムサール条約に登録され、水鳥はもちろん湿原の花やホタテ・アサリ、ホッカイシマエビなど豊富な資源を有しているとのことでした。

この後、浜中町へ移動し、霧多布湿原センターを訪問。スタッフの辻ねむさんより、霧多布湿原センターでの取り組みや施設運営をしているNPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの活動について教えていただきました。宿泊先のペンションポーチでは、瓜田勝也さんより霧多布湿原の四季や自然、またトラスト活動のきっかけについて、レクチャーいただきました。

視察最終日は釧路へ移動し、釧路湿原温根内ビジターセンターを見学。釧路湿原内を散策し、道東の自然を堪能しました。

今回の視察研修を通して、道央の湿地ネットワーク組織として、道内の他の地域との湿地関係者と保全活動等の情報交換を増やしていきたいと感じました。視察研修にご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました！



春国岱を歩く

野付半島

レクチャーの様子

視察・訪問場所一覧

- カキキンオイスターバー（厚岸町）
- 春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター（根室市）
- 野付半島ネイチャーセンター（別海町）
- ペンションポーチ（浜中町）
- 霧多布湿原センター（浜中町）
- 釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター（釧路市）

湿地トリビア

しめっちな草木 #1 ツルコケモモ

ツツジ科　学名 *Vaccinium oxycoccus* Linnaeus

ツルコケモモはボッグ(高層湿原)を象徴する植物の一つで、ひょろひょろとした植物体に似合わないパチンコ玉大の赤くて酸っぱい果実は、かつて石狩平野の入植者やその子どもたちの秋の味覚でもありました。6月頃に桜色の花を咲かせますが、花弁が生米大と非常に小さく、茎葉と同様に地表近くにあるため、慣れないと探し出すのも一苦労で、真横から撮影しようとすると湿原に寝そべる羽目になる、カメラマン泣かせの花です。

ミズゴケレスキュー活動

2020年11月１日に江別にあるミズゴケの生育地で今年もレスキュー活動を行いました。

この生育地は環境が悪く、放置しておけばミズゴケ消失してしまう可能性の高い場所です。レスキューしたミズゴケは、夕張川で進められている幌向地区自然再生に活用やガラスポットに小分けして、※ミズゴケ里親制度に活用しています。

今回は一般参加者に加え、地元NPOや若手農業者の組織である農猿の方々にも参加していただいて実施しました。皆さんは、丁寧にミズゴケを手に取り、感触を楽しみつつ作業していただきました。初めてミズゴケに触れる機会を得て、貴重な体験をしたと声も聞こえ、活動を通してミズゴケの姿や役割を伝えていきたいと思っています。

レスキューには江別河川事務所の方々に協力していただきました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

※ミズゴケ里親制度：ガラスポットに小分けしたミズコケをご自宅や職場などで育てていただいて、大きくなったミズゴケを自然に戻すという制度です。

しめ縄 WS

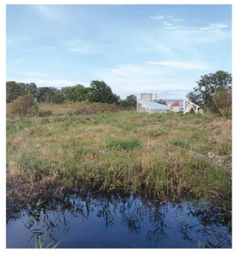
今年度はなかなかイベントを開催できない年でしたが、12月に「湿地文化体験～湿地に生えるスゲで〆縄を作ろう～」を開催しました。二杉寿志さんを講師としてお迎えし、両足を使いながらの慣れない作業に苦戦しつつ、みなさんとても上手に編むことができました。

まず湿らせたスゲの束を3等分し、芯となるアンコを入れながら編み上げ、輪の部分を作ります。その後、足の部分としてもう一束のスゲを3等分して輪に差し込み、飾りを固定したら立派な〆縄の完成です。

ひと昔前にはスゲが生育するような湿地は多くありましたが、現在ではそのような湿地やスゲも貴重なものとなっています。市販されている〆縄はナイロンや中国産のスゲでできたものばかり。神社の〆縄でさえ、そのようなものが増えているのだとか。

今後も当会では、湿地の減少とともに消失の危機にある文化を体験する機会を作り、多くの方々に湿地の魅力を伝えたいと考えています。スゲが生育する湿地を残したり、スゲを育てる場を作るなど、道産のスゲで〆縄を作る文化を残す活動も思案中です！

蕨岱湿地 核心部は保全



しめっちネットの合同探索会で訪れた高層湿原の名残が残る当別町蕨岱の湿地、前号で「ソーラー発電建設から、湿地の核心部が保全された」と簡単にお知らせしました。

この湿地は、排水された農地の中に残る原野で、周囲も深い排水溝によって乾燥化が進んできていますが、泥炭採掘跡に水がたまり、ミズゴケ等の群落があり、カラカネイトトンボも生息しています。

探索会後、工事が始まったため、施工の工夫等で湿地環境を残せないかと発電会社に要望しました。検討いただいた結果、湿地核心部が施工エリアから外されました。調査結果の提供やアドバイス・応援いただいた矢部和夫先生や大原昌宏先生はじめ関係者の皆さん、ありがとうございました。事業者である（株）エコスタイルさまには、環境保全にご協力いただき、大変感謝しております。これが保全の良い事例となるよう、また観察会等の利活用の場として進めていきたいと考えています。そして日頃から残存湿地を探索し、地権者らとコンタクトを取るという地道な活動の大切さも、改めて感じました。

しめっち会員紹介

新篠津ツルコケモモを守る会

当会は、2015年晩秋に新篠津村の西高倉・拓新地区でボッグ(高層湿原)が再発見された直後に、この湿原(西高倉・拓新湿原)の保全・再生を主な目的として準備会が発足、翌2016年に正式発足した団体です。年数回の現地見学会や学習会などを通じて、石狩平野の残存ボッグでは屈指の植物相を残している西高倉・拓新湿原の価値を発信しつつ、地権者の割り出しと保全活動への協力依頼、専門家や地元自治体との情報共有などに努めています。

新篠津ツルコケモモを守る会 ブログ
https://ameblo.jp/shinshinotsu-cranberry/